

(別添様式4)

令和5年度 学校評価実施報告書

学校名 (上京中 学校)

教育目標	
○校訓「人・もの・ときを大切に」	
○学校教育目標 「自立・貢献・夢づくり」	
～豊かな心とたくましく生きる力を備え、夢や希望をもって、未来社会の創り手となる生徒の育成～	
(スローガン「協働・創出」：共通の目的を達成するために、お互いの違いを認めつつ尊重しあい、課題解決に向けて心を合わせて協力・協調し、物事を新しく創り出そうとすること)	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	1 1 月 9 日	学校運営協議会
最終評価		

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実を目指して

～“深い学び”を重視した授業を通して「自ら学ぶ力」を育成する～

具体的な取組

【「深い学び」を重視した授業改善】

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業実践から資質・能力の育成を図り、学びの質を高める。生徒達が学習したことの価値や自分にとっての意義を確認できるような授業の実現を目指し、生徒の意欲的な学びを引き出す。
- ② 確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の定着を図るとともに、知識・技能を活用する学習活動の充実、習得・活用・探究という学びの過程から、問題解決的な学習や探究活動を充実させることにより知識をつなげ深く理解するなどの「深い学び」を生み出す。
- ③ 学習課題に応じた「まとめ」「振り返り」の徹底を通して、「自らの学びを調整する力」の育成を図る。
- ④ 多様な学習形態により、言語活動の充実を図り、協働的な学びを生み出す工夫をする。思考力・判断力・表現力を育成するとともに主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- ⑤ 校内授業研修・校内研究授業や支部授業研修会における授業交流などを通して指導力向上にむけて研鑽を積み、各教科で問題解決的な学習や探究活動の充実を目指す。
- ⑥ 全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム（予習シート・復習シートを含む）を計画的に取り組ませる。また結果の分析を行い、生徒の学力実態を把握するとともに、課題を明らかにすることで、授業改善や指導の工夫に取り組む。
- ⑦ 年間指導計画に基づき、授業のねらいを明確にした授業を展開する。また「目標に準拠した評価」や「目標と指導と評価の一体化」の充実を図ることで、効果的な学習評価を実施する。
- ⑧ 教科会の充実を図り、教員間の同僚性を高める。（時間割内の教科会を活用する。）
- ⑨ **KYOTO×教育 DX** ビジョン構想のもと、直接体験を伴う集団の中での学びと、ICT を効果的に活用した学びを組み合わせながら、特に「情報活用能力」を育てるために、ICT を活用した学習場面を設定する。
- ⑩ 支援を要する生徒に対する指導の目標や内容を明確にし、総合育成支援教育の充実を図る。

【自学自習の習慣化・個別最適な学び】

- ⑪ 「学習のすすめ」や「学習の手引き」を作成し、日々の授業と家庭学習の連動を通して、自学自習の習慣化をはかる。授業と連動した課題の提示方法の工夫・改善を行う。
- ⑫ 定期テスト前や、長期休業期間を利用した補充学習を実施し、自主的に学習する態度を育む。
- ⑬ ICT を活用した協働的な学びと、個別最適な学びを一体的に充実させる方策を開発・実践する。
- ⑭ 支援が必要な生徒について、個別の指導計画・個に応じた指導計画を作成する。また、支援が必要な生徒への教職員の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会を実施する。

【人権教育・道徳教育】

- ⑮ 人権文化の理解と定着を目指して、計画的・系統的に人権学習を実施する。
- ⑯ 人権学習の時間に限らず、教科・道徳・特別活動等、教育活動のあらゆる場面を通して、相互の主体性を尊重し共に成長し合う生徒の人権意識の向上に努める。
- ⑰ 体験活動や各教科、総合的な学習の時間、及び特別活動における取組と道徳教育を関連付け、

道徳的価値の自覚を深める指導の充実を図る。

- ⑩ 道徳の評価「こころのあゆみ」や学期ごとの振り返りを効果的に活用し、「生徒を育てる」評価のあり方、生徒自身の成長と課題を自己認識させることができる評価の工夫と改善を図る。
- ⑪ 公共の精神としなやかで豊かな心の育成を通して、自ら律する力の育成とともに規範意識の向上に取り組む。

【キャリア教育】

- ⑫ 総合的な学習の時間を核とした、カリキュラム・マネジメントの視点を意識したキャリア教育を推進し、探究活動の充実を図ることで、子どもが主体的に学ぶ力を育み、子どもの成長と自己実現を支援する。
- ⑬ 「生き方探求（キャリア）パスポート」等を活用しキャリア形成についての見通しを持たせる。
- ⑭ 進路指導を通して、生徒が自己実現に向けた進路選択ができるように支援する。
（・ジョイ JOB LAND での体験学習を、本校のキャリア教育（1年）として位置づけ、取組を進める。）
（・生き方探究チャレンジ体験を、本校のキャリア教育（2年）として位置づけ、取組を進める。）
- ⑮ 挨拶の励行、学習規律・基本的生活習慣の確立とともに、望ましい人間関係を構築する態度を育成する。学校行事、生徒会活動、部活動等を通して集団生活や集団活動の楽しさを実感するための取組の充実を図る。
- ⑯ クラスマネジメントシートや教育相談アンケートの結果を、学級づくりに活かす。
- ⑰ 学校行事、総合的な学習の時間、道徳の時間、特別活動等のあらゆる取組を通して、自尊感情や自己有用感、共感力を高める機会を設ける。

【保幼小中連携・地域連携】

- ⑱ 夏季合同研修会を通して、小中教員の交流を深める。
- ⑲ 小学6年生を対象に中学校での部活動体験や授業体験を実施するなど、行事における連携を図る。
- ⑳ 小中連携により、義務教育9年間を見通した学びと育ちの充実を図り、小中一貫教育を推進する。
- ㉑ 授業参観や公開授業の機会を利用し、保護者や地域の人々の参加・協力を得るなどして、家庭や地域社会との共通理解や連携を深める。
- ㉒ 文部科学省より「カリキュラム・マネジメント実践研究事業（授業時数特例校制度）」の研究指定を受けたことにより、教育課程で定められた授業時数を柔軟に運用し、カリキュラム・マネジメントを推し進め学習効果を高める研究を進める。テーマを「郷土・地域教育」と設定し、具体的には2年生の総合的な学習の時間におけるテーマ「社会に主体的にかかわる」のもと、年間計画に沿いながら、国語と社会と美術で行う。

（取組結果を検証する）各種指標

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

- ・全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの分析結果。
- ・全国学力学習状況調査生徒質問紙の結果。
- ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）

該当項目…授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。

生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。

授業での話し合い活動に積極的に参加しているか。

問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。

主体的・対話的で深い学びに向けた問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業をおこなっているか。

予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。

GIGA 端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。

家庭学習は行っているか。

【人権教育・道徳教育】

- ・学校評価アンケートの結果

該当項目…（生徒）相手を思いやり、寄り添う行動ができているか。

意欲的に道徳の授業を受けているか。

道徳の授業を今後の生活に活かしているか。

（教職員）自分を大切にすると共に、他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度を養えているか。

道徳の授業は、年間計画に基づいて実施され、実践力を身につけていくよう指導を工夫しているか。

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

- ・全国学力学習状況調査（質問紙調査）

該当項目…（29）今住んでいる地域の行事に参加している

（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

- ・学校評価アンケートの結果。（生徒・保護者・教職員）

該当項目…問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。

総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫しているか。

中間評価

各種指標結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】

○学校評価アンケート結果 ※（ ）内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。

・「授業がわかりやすい」…3 学年とも 85％以上、保護者 90.5％、教職員（伸ばす学習を展開）95.5％

・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3 学年とも 85％以上、保護者 86.4％、教職員 100％

・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」…1 年 79%、2 年 84.4％、3 年 87.7％、教職員（場面設定）95.5％

（R3 年度 1 年 86.5％（83）、2 年 76.1％（68.6）、3 年 92％（91.2）、教職員（場面設定）

100％、R4 年度 1 年 86.8％（86）、2 年 87.2％（81.7）、3 年 85.3％（79.5）、教職員（場面設定）89.5％（85.7） ※（ ）内の数字は前期の結果、数値がない場合は同数。）

・「意見や考えを人前で発表している」…1 年 68.5%、2 年 68.7%、3 年 66.3%

(R3 年度 1 年 60.3% (60.6)、2 年 52.1 % (49.7)、3 年 75.1% (72.6)

R4 年度 1 年 70.2%、2 年 70.4 % (62.4)、3 年 67.0% (63.1) ※ () 内の数字は前期の結果。)

- ・「主体的・対話的で深い学びに向けた問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業をおこなっている」教職員 90.9%
- ・「GIGA 端末を利用して意欲的に学習に取り組んでいる」…1 年 81.4%、2 年 92.2%、3 年 87.7%
教職員 77.3%
- ・「予習シート・復習シートに取り組んだ」…1 年 81.5%、2 年 95.1%、3 年 89.3%
- ・全国学力・学習状況調査（質問紙調査）結果「平日の読書時間が 1 時間以上」…15.3 % (全国 13.8%)
- ・「家庭学習の習慣が身についている」…1 年 70.8%、2 年 84.3%、3 年 73.7%

○学習確認プログラム結果（最新結果、京都市平均との比較）

- ・1 年生…国語、数学共に平均を上回っている…（国語 +2.1、数学 +2.8）
- ・2 年生…5 教科とも平均を上回っている…（国語 +3.6、社会 +7.8、数学 +7.8、理科 +7.1、英語 +2.8）
- ・3 年生…5 教科とも平均を上回っている…（国語 + 6.4、社会 +6.7、数学 +7.2、理科 +6.1、英語+8.8）

○全国学力・学習状況調査結果（京都府平均との比較）

- ・国語・数学・英語ともに京都府平均を上回っている…（国語 +0.8、数学 +1.4、英語 +1.9）

<全国学力学習状況調査（質問紙調査）より>

- ・「1・2 年の授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか。」…82.9%
（全国 79.2%）
- ・「1・2 年の授業で、自分の考えを発表するとき、うまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てを工夫したか」…60.0%（全国 62.1%）
- ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできているか」 80%（全国 79.7%）
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」80.7%（全国 72.6%）

【人権教育・道徳教育】

・「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができている」…1 年 91.2%、2 年 93.2%、3 年 98.1%、教職員 100%、保護者 88.8%

- ・「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」…1 年 95.5%、2 年 91.1%、3 年 95.9%

- ・「道徳の授業を今後の生活に生かしている」…1 年 89.2%、2 年 90.2%、3 年 92.6%

【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】

<全国学力学習状況調査（質問紙調査）より>

- ・(29) 今住んでいる地域の行事に参加している 36.6%（全国 48.0%）
- ・(30) 地域や社会をよくするために何かしてみたい 63.7%（全国 63.9%）

<学校評価アンケートより>

- ・総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫している。…教職員 100%
- ・生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている。…1 年 76.1%、2 年 83.3%、3 年 90.2%、
教職員 72.7%

自己

分析（成果と課題）

○学力向上に向けて、基礎基本の定着は概ね取り組んでいると考える。3 学年とも学習にも前向

評価	<p>きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また、学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。しかし、学習確認プログラムの指標を例年と比較してみると、全市平均を上回ってはいるものの、全体的に下降傾向にあり、全市平均に近づいている教科もある。基礎基本の定着をはかる授業や学習活動の在り方を、今一度見直す必要がある。</p> <p>○全国学力・学習状況調査から、3年生は学校の授業以外に、平日1日あたりの学習時間（塾などを含む）が「2時間以上」34.8%（全国33.7%）という結果が出ており学習に多くの時間を費やしている生徒が多いことがわかる。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒は51.2%（全国55.0%）で全国平均を下回っている。能動的・主体的に、計画性をもって学習に取り組む姿勢を養う工夫が必要である。</p> <p>○教員側は話し合い活動や発表の場の設定に積極的に取り組んでいるが、生徒たちは自信をもって人前で発表できるまでにはまだ至っていない。生徒の実態を見極めながら学習活動や発表形態に工夫を取り入れていきたい。</p> <p>○GIGA端末を有効活用することで、生徒の学習意欲の喚起に役立つことがわかった。今後は情報活用の視点から基礎・基本の定着やより探究的な学習活動にも取り組ませたい。</p> <p>○全国学力・学習状況調査では「平日の1日あたりの読書時間が1時間以上」…15.3%（全国13.8%）という結果であった。学校図書館の活用も促しながら読書の習慣を身につけさせたい。</p> <p>○道徳の授業で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと考えている生徒が3学年とも90%に近く、年々増えている。今後もすべての学校教育のなかで道徳教育を推進していきたい。</p> <p>○総合的な学習の時間が充実した結果、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動が活性化した。今後もこの「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のサイクルを大切にしたい授業実践に努めたい。</p> <p>○地域との関わりについてはR3年度より総合的な学習の時間で取り組んでいる。学年が上がるにつれ、地域に役立ちたいと考える生徒が増えている。今後も生徒の社会参画しようとする態度を育成するような授業・しかけを模索したい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>本校生徒は落ち着いた学習環境のもと、また、学校外での学習にも意欲的に取り組んでいる結果、基礎・基本を身につけている生徒の割合は多いことがわかる。しかしながら家庭学習の習慣が身についたと感じている生徒は8割に満たない学年が多く、自律した学習者を育成するための工夫が必要だと考える。8割以上の生徒は「授業がわかりやすい」と感じているものの、自信を持って人前で発表することに躊躇している様子もわかった。自信のなさは自己肯定感とも関係していると思われるので、学級での人間関係づくりなどに工夫をするとともに、毎時間の授業では生徒に「わかった」という実感を伴わせるような、わかりやすい授業を展開するための工夫・改善をめざしたい。また、GIGA端末を効果的に活用することで個別最適化をめざした授業改善にも取り組んでいきたい。</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>【授業改善】【自学自習の習慣化・個別最適な学びと協働的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラムの分析結果。 ・学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員） <p>該当項目…授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。</p>
----	---

	<p>授業での話し合い活動に積極的に参加しているか。</p> <p>生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。</p> <p>問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。</p> <p>予習シートを仕上げたか。復習シートに取り組んだか。計画通りに学習を進めたか。</p> <p>GIGA 端末を使用して、学習に意欲的に取り組めたか。</p> <p>家庭学習を行っているか。</p> <p>【人権教育・道徳教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目…自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができているか。</p> <p>意欲的に道徳の授業を受けているか。</p> <p>道徳の授業を今後の生活に生かしているか。</p> <p>【キャリア教育】【保幼中連携・地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目…総合的な学習の時間では、問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。</p> <p>地域を愛し、地域のために役に立とうと思っているか。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>自ら積極的に発信・発言することを目標としているところがあるが、その力を伸ばし切れていない現状があり、授業中などの生徒の発言については、今後もそのことは課題になると思われる。そういった中の要因として、一言で他の仲間を傷つけたり、自信がなかったり、否定的なことを言われたりすることを、大人が思っている以上に生徒は敏感に感じているのではないかと、というご意見をいただいた。また、生徒の言葉には間違いがあるかもしれないが、先生方はしっかりその意図を聞いていただき、言葉の言い換えなども含め、場面場面で、生徒に何がどう間違っているのか、しっかり伝え、自ら発言する場面や内容を精査できる力をつけてほしい、とのご意見をいただいた。</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

豊かな心を育てる「関係」を創り出し、「自尊感情」や「自己有用感」を高め、自他を大切にし、高め合う「態度」を育てる取り組みを推進する。

具体的な取組

- ① 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や他者を認める心と、人と人との絆の大切さを感じさせながら、自らの生活や人生をより良くするために自ら正しい判断ができる力の育成を図る。
- ② 命を大切にする心や他人を思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を図る。
- ③ 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を持たせる中で、他人の良さを見つけようと努め、自分もまた周りから大切にされているという実感を持ち、「自信と誇り」を持って安心して自らの力を発揮できる集団づくり・学級経営を実践する。
- ④ 様々な教育活動を通じて、障がいの特性や障がいのある生徒の困りについて理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。
- ⑤ 授業やワークシートは対話を通して生徒が学び合い「深い学び」につながるよう、また生徒が自らの学びを主体的に把握し、その学びを実践につなげられるよう、単元や題材を構成する。
- ⑥ 「こころのあゆみ」に関して、学校教育目標、学級目標をもとに、道徳の授業を通して自分自身の現状を捉え顧みて、年間を通して自己目標を設定させる。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・年間計画に基づいて道徳の授業が実施されているか。
- ・道徳的価値の理解や道徳的態度・実践力が身につくよう指導されているか。
- ・自尊感情（自己肯定感と自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。
- ・日常の清掃を積極的に行い、学校の環境をよりよくしていく努力をしたか。
- ・進んであいさつができているか。
- ・普段の交流事業や学校行事、生徒会活動における総合支援学校との交流。
- ・道徳の授業におけるワークシートの自己評価ができているか。
- ・「こころのあゆみ」における振り返りの変容。

中間評価

各種指標結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

○学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしている」 1年 89.2％, 2年 90.2％, 3年 92.6％
「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」 1年 95.5％, 2年 91.1％, 3年 95.9％

○自尊感情について

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校は相手を思いやり、寄り添う行動ができる学校」
1年 94.7％, 2年 96.1％, 3年 98.4％
「自分は周囲から大切にされている」 1年 91.3％, 2年 95.0％, 3年 95.9％
「自分は相手を思いやり、寄り添う行動ができている」 1年 91.2％, 2年 93.2％, 3年 99.1％
- ・保護者……「子どもは、自分の長所を知り、自分のよさを生かそうと努力している」 77.8％

(R2年度 70.1% R3年度 76.7% (69.6), R4年度 75.4%)

「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 87%

「子どもは、人を大切に作る言動をしている」 88.8%

・教職員……「生徒は、自分を大切にすると共に他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている」 100%

「本校では、生徒の良いところを認めて適切に評価している」 100%

「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取り組みをしている」 100%

※全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 結果(現3年生)

・「自分にはよいところがあると思いますか」 74.0% (京都府公立 78.1%, 全国 80.0%)

・「人が困っているときは、進んで助けていますか」 85.9% (京都府公立 85.2%, 全国 88.1%)

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

97.8% (京都府公立 94.7%, 全国 95.5%)

・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 95.6% (京都府公立 94.6%, 全国 94.6%)

○美化意識

※学校評価アンケート結果

・「掃除など、きれいな学校になるように努力した」 1年 92.1%, 2年 94.1%, 3年 97.5%

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

・「あいさつのできる学校・生徒」 1年 93.9%, 2年 93.2%, 3年 94.3%, 保護者 85.6%

教職員 80.9% (R4年度 68.2%)

・「自分はあいさつができています」 1年 92.1%, 2年 93.1%, 3年 95.1%

自己評価

分析(成果と課題)

○生徒が道徳の授業の重要性を感じ、生活に活かしていこうという態度の向上が見られた。1年生に関しては、「意欲的に取り組んでいるが、生活に活かすこと」が結びついていない生徒もいる。

○昨年は、あいさつに関して生徒と教職員に認識の差があったが、今年は前期の段階で、8割の教職員が「できている」と評価している。ただ、生徒、保護者の数値よりは低い。

○全国学力・学習状況調査からは、自尊感情に関わる質問に対し、本校生徒の回答は府や全国と比較すると若干低い数値を示しているが、学校評価の「自分は周囲から大切にされている」という項目に関しては高い結果となった。自分の良いところは、自分では見つけられないが、周囲から大切にされていることは理解している。これからも子どもが自分の長所を見つけ、短所も含めてありのままの自分自身を認められるように、適切な評価を与えることが課題である。子どもの自尊感情を高めるような活動や、適切な声掛けをできるように大人が意識する必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

○道徳の教材を自分ごとに捉え、実生活の中に置き換えて考えさせる発問や授業の工夫を行っていく。

○保護者・教職員をはじめ子どもの周囲の大人たちは、子どもが何を求めているのかをよく見極めながら支援を行う必要がある。子どもへの接し方や声掛けが、子どもの望みをかけ離れてい

	<p>ないか、子どもの心に寄り添い指導・助言を行っていく。</p> <p>○環境が人に与える影響は決して小さくないと思うので、まずはそれぞれの教室の美化から見直していきたい。誰かにとっては快適だが、それを苦痛とを感じる人もいる環境ではなく、みんながある程度快適と感じる環境づくりを目指していく。</p> <p>○子どもにあいさつの意義について考えさせ、実践させる機会をこれまで以上にもつとともに、日ごろの生活はもちろん、委員会や部活動の中でも、積極的にあいさつができるよう、折に触れて子ども達と共に考えていく。</p> <p>○道徳通信を発行し、家庭での保護者と子どもの対話と橋渡しをしていく。また、保護者にも子どもが受けている道徳の授業について関心をもっていただく機会を増やしていく。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳通信を学期に一回発行できたか。 ・自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営を行い、それらの様子を積極的に保護者に伝えられているか。 ・あいさつについて生徒が考え、実践する場面を学級・部活動・委員会等で与えられているか。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>あいさつについて、生徒は、学校外の大人に対して、認識している大人には外で会った時にもあいさつをするが、例えば、中学校に出入りしている業者の方や、保護者に対しては、なかなかあいさつができないので、自分の学校に係る大人に対してもあいさつをする明確な意識をもち、自分からあいさつができるようになってほしい、「学校に来る人には、みんなあいさつをしよう」といった呼びかけを教員から継続してほしい、とのご意見をいただいた。加えて、小学校は幼さも残る中、元気にあいさつができる。また、高校生になると、意識を持ってあいさつをできるようになる生徒が多く、中学生はその合間で、自意識がある時期なのかもしれないので、仕方がない部分もあるのでは、などのご意見があった。</p> <p>PTA を中心に、大人の朝のあいさつ運動など、今後も継続し、学校と一緒に支援していきたい、などの意見もいただいた。</p>

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	生徒・教職員ともに自らの心身に対する意識を深めるとともに、体力の向上に向けて健康な生活を
------	--

実践できるよう知識を身につけ、実践を通して健やかな体を育成する。

具体的な取組

- ① 運動やスポーツに親しむ気運を高め、「1校1プラン」の計画をもとに体力の向上とともに、運動の楽しさや喜び、達成感・成就感等を味わい、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践できるよう、体育学習や運動部活動の一層の充実を図る。
- ② 体育学習や部活動の実施にあたっては、組織的・計画的な安全管理を徹底するとともに、部活動の運営にあたっては、適切な休養日や活動時間を設け、安全で、より充実した活動となるよう学校全体で取組を進める。
- ③ 早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的な生活習慣をさらに確立するために実態調査を行うとともに保護者や家庭への啓発を図る。
- ④ 飲酒・喫煙・薬物に関する教育、性教育、エイズ教育等の実施により、正しい知識の理解を図り、心や体を大切にする教育を保護者、生徒に向けて推進する。
- ⑤ 学校教育全体を通して防災教育や防災管理を充実させ、自ら命を守る主体的態度や安心して安全な社会づくりの意識を高める。
- ⑥ 危機管理マニュアルに基づく研修や訓練実施し、教職員の防災・防犯意識を高める。
- ⑦ 感染症予防に対する正しい知識のもと、自己の体調や周りの状況に応じて対応できる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 体力テストまたは全国学力（3年）・運動能力（2年）調査
- 生活習慣アンケート（中3の全国調査にて考察）
- 薬物乱用防止教室、性教育において正しい知識を身につけ、自らの心身を大切にしようとしているか。
- 避難訓練において自ら命を守る主体的態度が育っているか。
- 教職員研修・訓練の実施

中間評価

各種指標結果（下線は、今後の課題の対象と考える項目である）

- 全国学力・学習状況調査の結果（3年生対象）より
 - ・「朝食を毎日食べていますか？」…「食べている」、「どちらかといえば食べている」85.9%（全国91.2%）
 - ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか？」…「寝ている」、「どちらかといえば寝ている」83.7%（全国78.0%）
 - ・「毎日同じくらいの時間に起きていますか？」…「起きている」、「どちらかといえば起きている」94.8%（全国91.3%）
 - ・2学期がスタートして、生活リズムの変化から体調不良や感染症に罹患する生徒が増えた際に、睡眠について保健だよりを発行した。
- 体力テストの結果より
 - ・今年度は、コロナが第5類に分類され、制限なくすべての種目において実施することができた。（この体力テストは全国共通のもので、総合得点をもとに総合評価をA～E段階に分けられる）
 - ・本校の集計より、本校の昨年の結果と比較し、男子ではA・B層が17.1%から24.7%と約7%の増加、D・E層が47.7%から40.5%と約7%の減少。女子ではA・B層が39.8%から36.0%と約

	<p>4%の減少、D・E層が29.8%から32.3%と微増。特に2年生女子だけで見るとD・E層が45%を超えているのが気になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記は本校の記録を昨年度のものと比較したもので、全国平均との比較ではない。 <p>○感染症予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが第5類に分類されてからはマスクの着用は本人の判断となったが、学校としては手洗いや換気を呼掛けた。昼食時の黙食も強制はしないが、生徒たちは黙食の意識は強い。 ・保健室では生徒がベッドを使用したら、熱のあるなしや使用時間に関わらず、シーツやタオルケットなどすぐに取り換えるようにしている。 <p>○避難訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期は予定通り実施できた。 <p>○薬物乱用防止教室、性教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非行防止教室は2年生を対象に、薬物乱用防止教室は3年生を対象に長期休みとなる夏休み前に実施予定できた。 ・2年生の性教育について助産師さんを招いて講演していただくことになっている。今年度も昨年同様助産師さんを講師に迎え体育館で実施予定である。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○「朝食を食べる」ことについては、毎年ほぼ同じような結果で、高い水準を保っていたが、昨年に続き、全国平均91.2%を下回った。本校の比較で一昨年度は93.4%だったので、7.5%の低下である。</p> <p>「起床時間はいつも（だいたい）同じ時間である」と答えている割合は全国平均を5%上回り、「寝る時間はいつも（だいたい）同じ時間である」では全国平均の3%上回った。昨年度まではほぼ全国平均か下回っていたが、改善が見られた。ただし、この結果からは睡眠時間が十分であるかどうかはわからない。</p> <p>○体力テストの結果より、男子のD・E層の改善が見られたもの、2年生女子のD・E層が45%を超える数字となっており、相変わらず体力の二極化が目立つ結果となっている。</p> <p>○避難訓練については、平常通り実施し、ほぼ3分以内に全員がグラウンドに集合することができた。より早く落ち着いて安全に集合できることを目指す。</p> <p>○今年度は教職員研修として「事故の未然防止」・「緊急時の対応」（HANAモデル）について共通理解を図るための研修を11月に実施する予定である。</p> <p>○学校行事においては、感染対策を行いながらコロナ前と同規模で予定通り実施の方向である。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○本年度より昼休みの学級ボールの貸し出しを再開し、ボールで遊ぶ姿が多くみられるようになってきたので、継続していく。</p> <p>○短学活での食育や保健だより（朝食の重要性や睡眠について）、学校だよりでの呼掛け</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣アンケートでは睡眠時間を質問項目に入れ、学習時間、スマホや携帯の使用時間、朝食の有無を中心に行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>心、身体、頭、バランスよく動かしておくことが、コロナ禍を通して大切だと感じている。それができるのが、学校生活であるので、引き続きバランスよくいろんな取組をしてほしい。また、体力づくりの活動や薬物防止などに、何度も啓蒙活動などを続けてほしい、などのご意見をいた</p>

価	<p>だいた。</p> <p>小学校の校長先生からは、就学前からの積み上げが、体力面にも影響しているのでは（コロナ禍において、様々な制限があったので）。小学校でも中間休みなど運動量を増やすようにしているが、小学校でも体力向上は課題であると感じている。などのご意見があった。</p>
---	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 学校独自の取組

重点目標
<p>小中一貫教育＜K（烏丸）K（上京）P（プロジェクト）＞における重点目標を「自らの未来を切り拓き、しなやかに生きる子どもの育成」と設定し推進する。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>○小中一貫教育における「目指す子ども像」を踏まえ、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を大切にする。 ・あいさつをする。 ・進んで学ぶ。 ・自分の考えを表現する。 ・地域を愛する。 <p>① 小中の教職員が連携し合い、「中1ギャップ」の解消を念頭に置き、入学後も引き続き教科指導や生活指導を行う。</p> <p>② 新入生の中学校入学に対する不安を取り除くために、部活動体験や授業体験、生徒会による学校紹介等の取組を行う。</p> <p>③ 授業交流や学力分析を通して、カリキュラムの連続性を考える。</p> <p>④ 保幼小中合同で地域行事に参加し、ブロックでの家庭・地域との連携を進める。</p> <p>⑤ 保幼小中合同研修会や小中間での公開授業などを進め、連携を深める。（GIGA スクールでの連携を系統的に図る）</p> <p>⑥ 「目指す子ども像」について、学校評価アンケートを検証し、結果から9年間の子どもの学び・成長を分析する。</p> <p>⑦ 学校ブロックにある保育所・幼稚園（鶴山保育所・京極幼稚園・みつば幼稚園）との連携を推進する。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標
<p>・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について、小中で共通のアンケート項目を分析</p>

する。(共通項目：人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。)

- ・小中連絡会や校長会、教頭会、各部会を計画的に実施することができたか。
- ・小学校と中学校合同の研修会や、授業・部活動体験を行うことができたか。
- ・学校だよりやホームページ等でKKPの取組を情報発信することができたか。

中間評価

各種指標結果 (%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

(下線は、今後の課題の対象と考える項目)

① 小中一貫教育構想図に示した「めざすこども像」について

「地域を愛する」生徒の育成について

＜全国学力学習状況調査（質問紙調査）より＞

- ・(29) 今住んでいる地域の行事に参加している 36.3% (全国 38.0% 京都府 37.6%)
- ・(30) 地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思うか 63.7% (全国 63.9% 京都府 62.2%)
- ・(32) 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。 65% (全国 63.2% 京都府 61.8%)

＜学校評価アンケートより＞

- ・生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている。

…1年 76.1%、2年 83.3%、3年 90.2%、保護者 59.7% 教職員 72.7%

- ・総合的な学習の時間は計画的・系統的に実施され、課題を発見し、解決する力を身につけていくよう指導を工夫している。…教職員 100%

② 小中連携については、KKP 校長会・KKP 教頭会・教務主任会・生徒指導部会・研究部会などを定期的に行情報交換等を実施した。

③ KKP 夏季合同研修会を行い、保育園の取り組みから保幼小中の共通理念等を確認した。

KKP 夏季合同研修会について（運営方法 講演会・分散会についてアンケート結果）

よかった 中学校 100% 小学校 93% 保育園幼稚園 100%

④ 随時、学校だよりや学校ホームページであいさつ運動など、KKP の取り組みについて情報発信をしている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ① 地域との関わりでは、「生徒は地域を愛し、地域のために役に立とうと思っている」3年生の割合は90%をこえている。これは3年間総合的な学習の時間を続けてきた成果と言える。しかし、具体的に自分が何かしているというところには至っていないのが現状である。
- ② 小中連携については、主任会を行った後に主任同士の連携が深まった。
- ③ KKP 夏季合同研修会では、各校種間の連携が深まったのはよかったという意見もあったが、分散会で各分野（生徒指導・道徳・総合的な学習の時間など）の先生方でわけて話ができただ方がよかったという意見もあった。

分析を踏まえた取組の改善

- ① 総合的な学習の内容をより多く地域などに公開していく。
- ② 各主任会での報告の共通理解を深めていき、小6授業体験や部活動見学につなげる。
- ③ 来年度のKKP 夏季合同研修会のあり方を考える。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

	<p>① 学校評価アンケートの結果。</p> <p>該当項目…地域を愛し、地域のために役に立とうと思っているか。</p> <p>総合的な学習の時間では、問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。</p> <p>② 小6 体験授業や部活動見学の取り組み結果。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>地域行事への参加パーセントが低い。休日の中学校の部活動の予定があり、地域の行事に参加できない場面もある。逆に、部活動が土日のどちらか1日は休みになったので、地域の運動会などに参加できていた面もある。また、元学区の行事に、他地域から入ってきている家庭が参加を悩む方もいるのでは、などの意見があった。</p>

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標
業務の効率化を図るとともに、自分自身のライフワークバランスについて見つめ直す。
<p>具体的な取組</p> <p>① 日常的に業務時間、退勤時間について呼びかける。</p> <p>② 会議を精選、効率化する。</p> <p>③ 教職員1人ひとりが、ライフワークバランスの意識を持って業務遂行するように呼びかけ意識づける。</p> <p>④ OJTを意識した職場環境をつくる。</p> <p>⑤ 会議の時間短縮と行事の精選や準備等の効率化を目指す。</p> <p>⑥ 保護者連絡ツール「スクリレ」や、採点補助ソフト「百問繚乱」の有効活用を積極的に行う。</p> <p>⑦ 完全下校時間を通年午後5時に変更し、教員の部活動指導時間の軽減を図る。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムにおける月ごとのデータをもとに、教職員1人ひとりの意識改革を行うことができたか。 ・会議の資料は事前配布することができたか。また、会議資料などを事前に GIGA 端末を用いて、共有できたか。

中間評価

各種指標結果

○出退勤システムにおける超過勤務者（80時間以上）・時間外勤務時間集計結果（教職員32人）

- ・4月… 4人（平均52h1m） 【昨年度9人（平均56h8m）】
- ・5月… 4人（平均55h55m） 【昨年度9人（平均54h41m）】
- ・6月… 7人（平均53h45m） 【昨年度7人（平均56h34m）】
- ・7月… 0人（平均38h18m） 【昨年度0人（平均43h19m）】
- ・8月… 0人（平均17h34m） 【昨年度0人（平均18h55m）】
- ・9月… 10人（平均53h37m） 【昨年度7人（平均53h10m）】
- ・3か月連続80時間以上超過勤務者… 3人

○職員会議の資料をデータ化し事前に配信、会議に各自統合端末を持参し、資料を検討できている。

○教職員の協力により、職員会議・研修会の時間短縮ができた。

○昨年度に比べ、働き方改革の意識が上がり、生徒と関わる時間を大切にしつつ、退勤時間の目標を決め、他の仕事の効率化を目指した働き方をする教職員が増えた。

○学校評価アンケート（教職員）では、「自分は、ライフワークバランスを考えて、業務の効率化を図っている」の項目で、「そう思う」「ほぼそう思う」が、重要度は95.2%、実現度は86.4%であり、意識の高さがうかがえた。

自己評価

分析（成果と課題）

○出退勤システムの内容から、勤務時間の長くなっている教職員に意識的に声をかけるとともに、仕事量に偏りがいないか、などの配慮をできる限り行った。

○働き方改革の観点から、研修会の案件の精選・時間短縮を行った。

○留守番電話機能の活用や、働き方改革などの流れで、一般家庭が考える教職員の勤務時間の意識が変わりつつあり、勤務時間外の朝早い時間帯や夜遅い時間帯における家庭連絡に対応する機会が減り、さらに、教職員も保護者対応をする時間帯を配慮するようになっている。

○超過勤務の分析

- ・4～6月において、おしなべて時間外勤務の平均時間については同様であるが、生徒指導等、保護者対応など、突発的な事案に対応する時間がある時とない時とに差がある。
- ・様々な行事や取組を工夫しながら再開することで、教職員と生徒が接する時間が増えたが、その分仕事の効率化を図り、昨年度よりも勤務時間を意識することで、超過勤務時間が減少したと推測される。
- ・休日の部活動指導や、対外試合・大会などの生徒引率指導など、平日の勤務時間にプラスされる時間の軽減が図れていないことは今後とも課題である。

○各自が自身のライフワークバランスについて考える雰囲気職場に出てきたので、更に意識を高めることが引き続き課題である。

○職場内のOJTの意識を高め、さらなる業務の効率化を図ることも依然課題である。

分析を踏まえた取組の改善

○生徒に関わる活動のための仕事を従前どおり継続しつつ、勤務時間の目標を設定し、その目標を達成できるように各自が意識を高める。

○各自がライフワークバランスと仕事の効率化を図るよう意識改革をさらに呼びかける。

○OJTを浸透させ、中堅・ベテラン教職員と若手教職員が仕事の分担を図り、時間短縮を図る。

○部活動指導時間と勤務のバランスを意識し、定着しつつある退勤時間の目安を引き続き意識し

	<p>ていただくように呼びかける。</p> <p>○校務支援員、ICT 支援員、学生ボランティアの活用をすすめる。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出退勤システムの集計を分析、検討する。 ・ 学校評価アンケート（教職員）での意識調査を継続する。 ・ 会議の資料など、ペーパーレス化できるところは実施し、資料準備の時間を削減する。。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校側の説明から、採点補助ソフトの導入により、テスト採点時間が大幅に短縮されたことに、驚かれていた参加者が多く、今後も ICT 機器などをうまく使いながら、超過勤務時間の削減などに努力してほしい、との意見があった。</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が安心して、安全に活動できる集団づくりを推進する。 ・ 生徒一人ひとりを大切にし、見逃しのない観察・手遅れのない対応・心の通った指導を推進する。
<p>具体的な取組</p> <p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか。 ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介しているか。 ③ 学校教育活動生徒アンケートの「自分は相手を思いやり、寄りそう行動ができている。」「上京中学校は、相手を思いやり、寄りそう行動ができる学校」「上京中学校は先生と生徒が話しやすい学校」等の項目を検証する。 ④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有しているか。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知しているか。

中間評価

各種指標結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

① 年度初めの職員研修でいじめ防止基本方針の確認を行った。

教職員アンケート「自分は“学校いじめの防止等基本方針”の内容を理解し、組織的対応に努めている。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100％であった。

② 全校集会で学校長よりいじめ対策委員会のメンバーを紹介し、いじめなど困ったことが起きた時はすぐに係の先生や自分が相談しやすい先生に相談に行くように指導している。

③ 各種アンケート結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

（下線は、今後の課題の対象と考える項目）

〈生徒〉・・・学校評価アンケート結果

- ・「自分は楽しく学校に通っている」 1年生 89.5％ 2年生 92.0％ 3年生 91.1％
- ・「自分は周囲から大切にされている」 1年生 91.3％ 2年生 95.0％ 3年生 95.9％
- ・「自分はいじめはしてはいけないということを認識（わかって）している。」
1年生 98.2％ 2年生 98.0％ 3年生 99.2％
- ・「自分は相手を思いやり、寄りそう行動ができています」
1年生 91.2％ 2年生 93.2％ 3年生 99.1％
- ・「上京中学校決まりを守れる学校」 1年生 95.7％ 2年生 87.3％ 3年生 97.6％
- ・「上京中学校は先生と生徒が話しやすい学校」
1年生 96.5％ 2年生 98.0％ 3年生 98.4％
- ・「自分はいじめられたり、いじめを見たときに教員に相談すればよいかわかってる」
1年生 91.0％ 2年生 94.1％ 3年生 97.6％

〈保護者〉・・・学校評価アンケート結果

- ・「学校の生徒指導の取組が理解できる」 89.1％
- ・「先生は、子どもに対して適切に指導している」 80.7％
- ・「生徒は、生き生きとしている」 89.6％
- ・「生徒は、学校や社会のきまりを守っている」 94.2％
- ・「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」 83.0％
- ・「子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている」 78.6％
- ・「子どもは、自分が大切にされていると感じている」 87.0％
- ・「子どもは、人を大切にする言動をしている」 88.8％
- ・「HPの『学校いじめの防止等基本方針』を読んだことがある」 65.4％

〈教職員〉・・・学校教育活動教職員アンケート結果

- ・「本校では、学校・学年・学級の情報は適切に保護者や生徒に提供されている」
重要度 100％ 実現度 95.5％
- ・「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を十分生かせるような取組をしている」
重要度 100％ 実現度 95.5％
- ・「本校では、生徒の良いところを認めて適切に評価している」
重要度 100％ 実現度 95.5％

	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校では、カウンセリングマインドを持って親身になって相談に応じている」 重要度 100% 実現度 100% ・「本校では、個々の家庭の教育上の課題を把握し、保護者との話し込みを行っている」 重要度 100% 実現度 95.5% ・「本校では、保護者からの相談に適切に対応し、相互の信頼関係を築いている」 重要度 100% 実現度 90.9% ・「本校では、生徒指導に関して迅速に対応するため、報告・連絡・相談の原則に沿った行動がとれている」重要度 95.3% 実現度 100% ・「生徒は、自分を大切にすると共に他者への尊敬・人権の尊重など、実践的態度が養われている」 重要度 100% 実現度 100% ・「自分は、傾聴と対話を大切にしてい、生徒を理解し、生徒指導を行っている」 重要度 100% 実現度 100% ・「自分は、学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている」 重要度 100% 実現度 100% <p>④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有しているか。 定例の生徒指導委員会で個別ケースの検討を行い、職員会議で内容を共有している。 教職員アンケート「本校では、生徒・保護者（アンケート結果含む）の訴えや相談内容を共有している。」では、「そう思う」「ほぼそう思う」と回答した合算数値は100%だった。</p> <p>⑤ 「上京中学校学校いじめの防止等基本方針」のホームページ掲載を行った。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>いじめにつながる可能性のトラブルや、いじめを早期に発見し、迅速かつ丁寧に対応することができている。また、いじめアンケートや教育相談を用いて生徒が相談しやすい環境を設けることができている。課題としては、学校生活の様子を教科担任や学級担任が見取った情報をある一定情報共有はできているが、タイムリーでなかったり、全体共有を徹底できていなかったりする状況もある。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>情報共有を徹底し、些細なことでも漏れなく報告・相談・連絡できるよう風通しの良い職場環境をつくっていききたい。そして、生徒を学校全体で支える生徒指導を展開していききたい。</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>いじめ関係生徒の経過観察を徹底すること。生徒の情報共有をするうえで不可欠な保護者との人間関係を構築できているかを検証いきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校側からの説明の中で、「積極的認知」の方向で、些細な生徒間トラブルにおいても、対応を重くとらえて対応し、さらに、必要があれば、関係機関とも連携しながらきめ細かく対応するようにしていることを伝えている。それを受けて、この概要で引き続き取り組んでいただきたい、とのご意見をいただいた。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p>

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策